

南城市の地域課題

南城市企画部まちづくり推進課

主査 喜瀬 斗志也

1. 自己紹介

南城市企画部まちづくり推進課 主査 喜瀬 斗志也

- 1979年生まれ
- 南城市（旧玉城村字親慶原）出身、在住
- 2004年（平成16年）4月に生涯学習課社会体育係として旧玉城村役場入庁
- 2006年（平成18年）1月1日に佐敷町、知念村、玉城村、大里村が合併し南城市が誕生
- 観光・文化振興課文化振興係→文化課文化財係→観光商工課観光振興係→企画課交通政策係→まちづくり推進課文化振興・離島振興・統計係
- 学芸員
- 南城市ミニバレー協会事務局長、親慶原青年会OB会会長

2. 南城市について



- ・那覇市から南東へ約12kmに位置する
- ・人口45,376人、18,869世帯
- ・東西18km、南北8km、面積49.70m²
- ・平成18年1月に佐敷町、知念村、玉城村、大里村が合併して誕生した
- ・市の西側は与那原町、南風原町、八重瀬町に接する
- ・市の東側は太平洋、中城湾に面する
- ・市の大里から知念にかけてL字型に琉球石灰岩台地がはしっており、高低差のある地形となっている

2021/11/26



おきなわワールド



新原ビーチ



斎場御嶽



奥武島

3. 南城市の現在と将来目標

①南城市の宝

琉球開闢の聖地、那覇から近距離でありながら自然が残る、文化遺産が数多く残る

②南城市が目指す都市づくり

- ・ 歴史交流田園都市
- ・ 自立・持続可能都市

③目標

- ・ 交流人口350万人
- ・ 5万人

4. 南城市の課題

- 人口偏在
 - 那覇、南風原、与那原、八重瀬に近い大里、佐敷西部、玉城西部では増加
 - 知念半島側の知念、佐敷東部、玉城東部では少子高齢化
- 生産年齢層の減少
 - 市東部で加速、地域文化の担い手不足
- 立地と地形→公共交通の維持と交通網の限界
- 産業と雇用→労働人口の半分以上が市外で就労、基盤となる産業がない
- 高等学校がない（高等教育機関もない）
 - 県内11市の中で唯一高等学校がない
 - 地域との関係希薄化、高等学校をまちづくりに取り込むことが難しい

《参考》南城市の人口推移

南城市の人口は全体として微増傾向にありますが、地域バランスを見てみると那覇市に近い西側で増加し、那覇から遠い東側で少子高齢化が進んでいます。また、年齢別では生産年齢層がどんどん減少しています。

	全 体	玉 城	佐 敷	知 念	大 里
H17年度総人口 (合併時)	40,759人	11,173人 (27%)	11,538人 (28%)	5,771人 (15%)	12,277人 (30%)
R1年度総人口 (12月末)	44,246人	12,174人 (28%)	12,164人 (27%)	4,788人 (11%)	15,120人 (34%)
人口増減数	+3,487人	+1,001人	+626人	-983人	+2,843人
0～14歳人口比較 (子ども層)	+717人 (17%→17%)	+364人 (17%→18%)	-197人 (17%→15%)	-231人 (15%→13%)	+781人 (18%→19%)
15～64歳人口比較 (生産年齢層)	-758人 (64%→58%)	-168人 (63%→57%)	-250人 (65%→59%)	-1,083人 (63%→54%)	+739人 (66%→59%)
65歳～人口比較 (高齢者層)	+3,528人 (19%→25%)	+801人 (20%→25%)	+1,073人 (18%→26%)	+331人 (22%→33%)	+1,323人 (16%→22%)

※便宜上、つきしろは佐敷に包括しています

出典：南城市住民基本台帳データより算出

2021/11/26
※住基上の人口ですので自治会員数の合計とは異なります

Aコープ閉店は地域にどのような影響を及ぼすか？

問題の本質について深掘ると…

例えばAコープの閉店というニュースは一定のインパクトがあるものの、本当に困っている人はどのくらいいるか。

- そもそも地域の方々が買い支えていれば閉店は無かったか？
- 買い物の手段はAコープだけという方は地域にどの位いたのか
- その方々は現在どのようにして生活用品を購入しているのか
 - このタイミングで同地域における某配達サービスの加入者が10件以上増加した
 - Nバス1本でスーパーに行けるほか、家族の送迎なども考えられる
 - ネット販売で購入すれば良いものもたくさんある
 - 今後は物流システムがより発展してくることが予想される（貨客混載、ドローン等）
 - そもそも近所のスーパーにすら行くことができない方もいらっしゃるのではないか
- 買い物に限らず医療や趣味においても社会システムやテクノロジーで解決できることがある
- しかしこれにはお金がかかる

地域を挙げた観光産業の構築～人口減少の実感を受けて～

文化遺産や伝統文化の継承

1 度失ったら二度と元に戻らない価値、もしくは元に戻すのにかなりのエネルギーが必要なもの

- 市を挙げた企業誘致や創業支援が必要であるが時間を要する
- 短期的には市の様々な資源を活かした観光産業に注力するしかない
- 市内に大きな産業が無い中で外貨を稼ぎ域内でまわしていくことに観光産業が貢献できる
- 但し、既存観光施設や観光事業者だけが儲かる仕組みではなく市全体で取り組める仕組みが必要
- 地域が直接観光収入を得られるようにするためには地域の商品が必要でありその地域ならではの資源を活用することが求められる
- また、このような商品を求める客層を掴むことと来訪者と地域を結ぶ役割の担い手の育成が必要
- 客層として位置付けられるのは関係人口であり、その創出のためにどのような施策が必要かを考えていくことが求められる

《参考》南城市の産業について

①概観として以下のような就業状況がある

- 南城市民のうち就業者数は18,617人（2015年）
- このうち南城市で従業している方は7,860人（2015年）→就業者の42%
- 他市町村への通勤者は10,411人（2015年）
- 第1次産業就業者は1,719人（2015年）
- 第2次産業就業者は3,230人（2015年）
- 第3次産業就業者は13,194人（2015年）

②大きな産業は無く財政的にも厳しい

- 市内における第2次産業の事業所数は243、市民従業者は2,268人（2014年）
- 市内における第3次産業の事業所数は1,126、市民従業者は8,020人（2014年）
- 製造品出荷額は25,536百万円で県全体の5%程度（2017年）
- 商業年間商品販売額は29,176百万円で県全体の1%程度（2017年）
- 市の財政力指数は0.35（2017年）、地方税は3,448百万円（2017年）
- 課税対象所得は38,283百万円（2018年）
- 納税義務者数15,930人（2018年）
- 事業所数1,387（2018年）

5. 関係人口の創出方法

◆既に関係人口な方々

- 市外に出ている家族や友人、姉妹都市、世界のウチナーンチュ
- 過去に南城市に来て感動した人たち（感動人口）

◆これから関係人口になってもらう方々

- 修学旅行の民泊利用者
- ふるさと納税寄付者
- 観光で南城市を訪れる方々（県内、国内外）
- 沖縄の文化に興味があり体験してみたい方々
- 琉球開闢の歴史に興味がある方々
- ウェルネスな旅がしたい方々
- 運転免許を持たない、もしくは旅先で運転したくない方々
- ワークেশョンで訪れた方々

《参考》関係人口について

人口減少エリアと関係人口という層をどのようにしてつなげていくかということがこれから必要となってくる取り組み。

※関係人口とは…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、**地域や地域の人々と多様に関わる人々**のことをいいます。地方圏は、人口減少・高齢化により、**地域づくりの担い手不足**という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、**「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となる**ことが期待されています。（引用：総務省 関係人口ポータルサイトより）



6. 関係(感動)人口創出において活かしていくべき強み

- ①東海岸の立地
- ②琉球開闢神話の聖地（琉球王国における精神文化の聖地）
- ③ウェルネス
- ④公共交通政策
- ⑤南城型エコミュージアム

《参考》南城型エコミュージアムの取組み

●南城型エコミュージアムを通じた観光と関係人口の創出

- ・エコミュージアムとは、まち全体を博物館に見立て、地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式、環境を住民が主体となって保存・保護・研究・整備・活用していかこうとする概念である

- ・南城市では地域特有の自然・歴史・文化等を資源として南城型エコミュージアムの構想を立てた

- ・これまでに27の自治会をサテライトと位置づけ各地域でワークショップを実施し各論をまとめるとともに地域の宝を手ぬぐいのデザインに落とし込んでモチベーションを高めてきた

- ・今後は地域の活動を支援しながら地域文化への関わりを通じた関係人口創出と将来的なU・I・Jターンによる定住人口創出につなげていきたい

《参考》南城型エコミュージアムの地域テーマ

地域名	文化遺産	地域の特徴	将来像
津波古	天人	最大の人口規模を誇り、伝統芸能が活発な地区	伝統芸能と健康長寿の港まちづくり
小谷	竹細工	住民主体でまち歩きに取り組む地区	小谷まーいで昔の暮らしを感じるムラづくり
新里	場天御嶽	尚巴志の祖父・佐銘川大主ゆかりの地区	祈りと歴史、水と文化の豊かな里づくり
佐敷	佐敷グスク	佐敷上グスクがあり、尚巴志との絆を誇りに思う地区	尚巴志スピリットを受け継いだムラづくり
手登根	古式エイサー	手登根エイサーを復活させ、活性化にむけてがんばる地区	アカバンタから広がるゆうゆうとぅのムラおこし
知念	知念グスク	知念グスクがあり、自然とゆいまーるが残る地区	歴史文化を活用して区の発展に挑む観光むらづくり
久手堅	斎場御嶽	琉球最高の聖地があり、ヌーバレーに燃える地区	観光客が立ち寄ってほっこりできるムラづくり
安座真	大神宮	新しいムラヤーとともに芸術文化振興に挑む地区	巨人伝説と海辺の芸術のムラづくり
知名	ヌーバレー	住民総出で多彩な芸能を披露する地区	華やかなり！ヌーバレーのムラづくり
久高	イザイハウ	神の島として多くの伝統行事が残る地区	「神の島・久高島」団結の島建てに向け前進！
垣花	垣花樋川	垣花樋川（ワナガー）をはじめ水資源が豊富な地区	水とともに長生きするムラづくり
仲村渠	仲村渠樋川	稲作の起源に関連する伝統行事が残る地区	どこか懐かしい景観をいかしたムラづくり
百名	百名ビーチ	アマミキヨが降り立った地として知られる歴史ある地区	歩いて知る琉球はじまりの地づくり
新原	新原ビーチ	ビーチに隣接し、観光客も多く訪れる地区	海と聖地を誇りに、観光と共存するムラ

《参考》南城型エコミュージアムの地域テーマ

地域名	文化遺産	地域の特徴	将来像
玉城	玉城グスク	玉城城跡がある眺望の優れた地区	歴史ある獅子舞と玉城城跡を誇りに、自然とともに暮らす地域
奥武	観音堂	離島にあり、漁業集落らしさが際立つ地区	奥武観音堂を誇りに団結する島づくり
富里	仲栄真グスク	第一尚氏の人々が移り住んだ地区	ひと味違う歴史と癒しのムラづくり
當山	石獅子	第一尚氏への誇りでつながる地区	祖先を敬い、伝統行事を大事にする地域
糸数	糸数グスク	糸数グスクとアブチラガマという二大看板を持つ地区	グスクとアブチラガマと集落をつなぐムラづくり
船越	船越大川	落ち着いた雰囲気と住宅開発が同居する地区	船越ウッカー活用からの交流ムラづくり
前川	玉泉洞	石灰岩の集落景観と芸能・芸術の活動が特徴的な地区	住民が主体となったムラづくり
西原	島添大里グスク	島添大里グスクの城下町として知られる地区	グスクとともに培ってきた歴史や伝統を伝えるムラづくり
南風原	食栄森御嶽	特徴的な文化遺産を誇りにまとまる地区	地域ま〜いで内外の交流を深めるムラづくり
大城	大城グスク	グスクに護られ、住民同士の絆が強い地区	シンカヌチャーが集い、伝統で賑わう里づくり
稲福	稲福グスク	スポーツ好きで、グスク時代からの古い歴史を持つ地区	明るく、楽しく、元気よく、歴史文化がつなぐムラづくり
真境名	真境名殿	竹細工の技術が残るのどかな地区	シンタを誇りに次世代へ文化を伝えるムラづくり
稲嶺	獅子舞	獅子が見守る伝統文化が息づく地域	伝統芸能で交流の和を広げる里づくり

《参考》地域が主体となつてつくる観光プログラム

琉球王国の聖地として知られる南城市は独自の自然、歴史、文化資源が豊富であり、これらを守り伝えているのは地域に暮らす人々である。これらの資源を活かしながらどのような商品を造成するか考えていく必要がある。「暮らすように旅をする」というテーマのもと人と人が出会い時間を育むような体験交流メニューが求められる。

事例1：仲村渠の稲作文化

南城市玉城の仲村渠地域は稲作発祥の地として知られているが、キューバ危機以降にサトウキビ主幹産業になると稲作が衰退し、近年は綱引き行事しか行われていなかった。しかし、地域の若者が平成29年に稲作会を立ち上げ、田んぼを整備し、稲作を復活させた。稲作体験には一定の人数が必要であることから、そこに関係人口導入の可能性があり、体験メニューとして受け入れることも可能と思われる。また、米や藁、粃などの有効活用も課題となっている。



《参考》地域が主体となつてつくる観光プログラム

琉球王国の聖地として知られる南城市は独自の自然、歴史、文化資源が豊富であり、これらを守り伝えているのは地域に暮らす人々である。これらの資源を活かしながらどのような商品を造成するか考えていく必要がある。「暮らすように旅をする」というテーマのもと人と人が出会い時間を育むような体験交流メニューが求められる。

事例2：久高島生活体験ツアー

南城市唯一の有人離島である久高島は神の島と呼ばれ、独特な伝統文化が継承されてきている。しかし近年は若者が減少し将来の担い手不足に悩まされている。そこで、島に若者を定住させるべく観光産業を創出するとともに島の様々な資源を守りながら活用するプロセスと一緒に体験できる久高島ならではのツアーを構築した。できるだけ多くの島民が関わることで観光経済が全体に行き渡るように工夫がなされている。



7. 関係人口創出手法としてのワーケーションについて

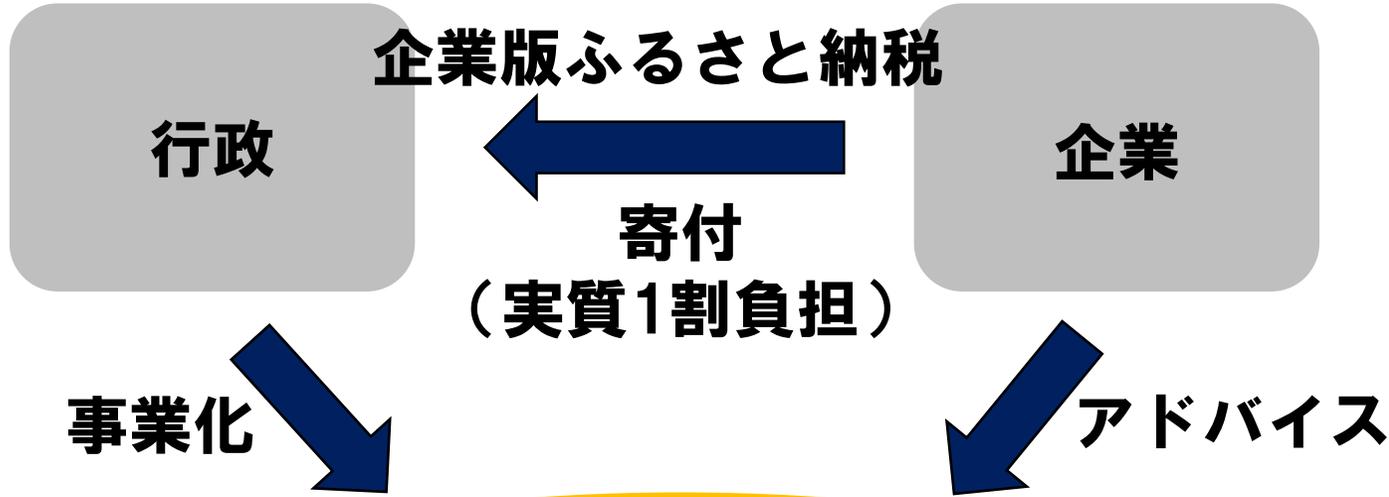
●ワーケーションとは？

- ワークとバケーションを掛け合わせた造語
- 旅先で仕事もするライフスタイル
- 目的は人によって「仕事軸」と「休暇軸」に分かれる

●南城市でワーケーション

- タピック沖縄がユインチホテル南城内にワーケーション施設を整備
- その後知念にアガイティータを整備
- 市としては観光消費額、滞在時間、周遊箇所数をアップさせたい
- 既存の観光スタイルでは通過型観光地になってしまい伸び悩む
- ワーケーションであれば中長期で滞在して頂ける
- リピーターにも成りうる
- 南城市の強みを活かせる可能性が高い

ワーケーションの誘致戦略について



地域課題を解決する
ワーケーションまちづくりを協創

誰でも参加
できるアイ
ディアソン

心と身体を
元気にする
ウェルネス

ライフスタ
イルはその
ままに

誰でも参加
できるアイ
ディアソン

- ◆誰でも参加できる
- ◆地域課題深掘り
- ◆異業種交流の場
- ◆地元、来訪者の交流
- ◆新しいビジネスの種
- ◆新たな知識と経験
- ◆アガイティータを活用

心と身体を
元気にする
ウェルネス

- ◆地元食材を使った美味しく健康的なレシピ
- ◆地域の文化やライフスタイルに触れる体験
- ◆朝活（ヨガ、乗馬）
- ◆ウェルネスプログラム
- ◆人間ドック
- ◆温泉

ライフスタ
イルはその
ままに

- ◆趣味のスポーツや文化活動を諦めない→体育協会や文化協会が紹介
- ◆こどもの預かりや教育を諦めない→保育やオンライン授業での対応
- ◆移動を諦めない→公共交通政策に注力

8. 今後の展望

- ①南部東道路の整備
- ②先導的都市拠点の創出とバスターミナルの整備
- ③広域連携（南部、東海岸、首里や浦添、姉妹都市等）
- ④インバウンド需要（アフターコロナ）
- ⑤ワーケーション需要（南城型エコミュージアムの促進）
- ⑥貨客混載（交通ネットワークと物流の連携）

9. 南城市における関係人口創出の推進体制

